

行政調査新聞社
 〒350-1103 埼玉県川越市霞ヶ関東三丁目八番地十三
 TEL 049(237)5431 FAX 049(237)5432
 http://www.gyouseinews.com/
 東和銀行霞ヶ関支店 普通口座 3009607
 キョウセイチヨウサシンプンシヤ(行政調査新聞社)
 社主 松本州弘
 毎月一回 22日発行
 一般購読費.....1ヶ月 1万2千円
 賛助購読費.....1ヶ月 3万円
 賛助会員購読費.....1ヶ月 6万円
 特別購読費.....1ヶ月 12万円

行政調査新聞

平成23年(2011年)

7月号

行政調査新聞は、地域住民の権利を擁護し、行政と公共機関の横暴に対して断固たるメスを振るう新聞です。

J A いるま野・不正選挙疑惑特集

「カネが動いていることなど、みんなが知っていた！」

背後にうごめく「熊谷総合病院新築計画」問題 自浄作用が働かない J A いるま野に明日はない！

さる6月15日に開かれた J A いるま野「第15回通常総代会」…。午後からは新代表理事の選挙が実施され、組合長・副組合長・専務らが選任された。

だがこの選挙、実施前より不穏な「カネ」の噂がうごめいていた。選挙の前日には「カネ」がらみで緊急監査会が開かれたほど。さらにいえば、そもそも選挙の必要性があつたのかさえ疑問視される、いかがわしさ満載の「裏切り者」の存在が取材の過程で見えてきた。

たのは J A 厚生連病院問題。2つの病院の「経営再建と新築」を無理にでも押し進めようとする J A 中央会の「コントローラー」と、恩を仇で返すかのような、 J A いるま野の「裏切り者」の存在が浮上した……。

「 J A いるま野」臨時理事会「新代表理事選挙の非常識」「カネばらまき事件」発覚直後に役員選挙を実施する「異常性」

6月15日午前10時、 J A いるま野(いるま野農業協同組合)にて「第15回通常総代会」が開催された。

臨時理事会では、新代表理事(組合長・副組合長・専務)を選任するための選挙(一般的に言えば選挙)が行われ、代表理事組合長に宮岡宏太郎氏、副組合長に大河内裕之氏、専務理事に福島隣一氏が、また常務理事には齊藤満氏(管理担当)、水村芳夫氏(営農担当)、山下義夫氏(金融担当)、山下義夫氏(常勤監事)に吉野正二氏がそれぞれ選ばれた。

だがこの新代表理事選挙、実施前より露骨な「カネがらみ」の動きが見られた……。というより「カネが動いていること」は周知の事実だった」と明言

正組合員が500人以上で構成される J A 各組織では、総会に代わり総代会を設けることができる。また、その総代会を構成する正組合員のことを総代と呼ぶ。一般企業になぞらえれば、株主500人から選ばれた株主代表に相当するのが総代である。 J A いるま野の正会員数は2万9千人だ。

午前中は議案進行と60名の理事承認。そして同日午後1時30分から開かれた臨時

		新役員(2011.6.15選出)		旧役員	
役職	地域	役員氏名	地域	役員氏名	
会長	(空席)	(空席)	所沢	細野 邦彦	
代表理事 組合長	狭山	宮岡 宏太郎	川越	小澤 稔夫	
代表理事 副組合長	川越	大河内 裕之	所沢	小高 儀三郎	
代表理事 専務	入間	福島 隣一	東部	桑原 福治	
常務理事	本店	齋藤 満	本店	齋藤 満	
常務理事	本店	水村 芳夫	本店	水村 芳夫	
常務理事	本店	山下 義夫	本店	山下 義夫	
常勤監事	本店	吉野 正二	本店	田中 繁男	

新役員は基本的に「農業協同組合新聞」6月15日付け記事の引用を元としている。会長理事は空席(会長理事は J A 埼玉県中央会(埼玉県農業協同組合中央会)の役員が就任する。今回は該当ポストの人物が不在のため空席となった)。なおこの事実を確認するためだけに本紙が J A いるま野に電話で問い合わせると、驚いたことに電話をたらい回しに20分近くも待たされたあげく「責任ある回答ができる者が不在なのでお答えできない」との返事。「会長理事の氏名と、それほど回答に慎重を要する質問なのか」と再度問うと「……そうです」と小声で囁いたかと思うと黙ったまま。何度も聞いたことにより、ようやく別の担当者により「空席」との回答を得た、というありさまであった。こうした端的な一面が、 J A いるま野という組織の体質そのものの反映であるならば大きな問題だ。

事・監事ら執行部は「カネが動いている」ことなど、とつづく事実として知っていたからだ。

午前中の議案進行中、所沢地域の総代から発せられた「今回の役員選挙で金銭が動いているのではないか」との質問に対し、齋藤常務理事が曖昧に答弁した様子には、鼻白む空気が漂った。午後の臨時理事

会においても、開会直後に桑原氏(前代表理事専務)が、「不祥事に近い事件があつた。役員改選は特に公平公正でなければならぬ」とアナウンスするありさま。一般的な言い方をすれば、これからまさに選挙が行われるその直前に、専務理事の口からこのような発言が出たのだ。

長(代表理事組合長)のみ。緊急監査会が召集されたその目的こそは、まさに「カネが動いた」からであつた。この緊急監査会の議事録は非公開扱いであるため、本紙が閲覧することはできなかった。だが漏れ聞いたところによれば、議事録には「代表監事の小室氏が再三にわたって『カネを返すよ』主張した」という、驚くべき記述が存在するといふのだ。

総代会前日の14日午後4時、 J A いるま野で緊急監査会が開かれた。緊急監査会を召集できるのは組合

代表監事が執拗に「返せ」と迫った「カネ」。この記述はいつたい、何を意味するのだろうか？

こんなもの(カネ)を預かっている。どうしようか。みんな分けてみようか。 C→B→Aの「買収マネーライン」と、ばらまきを「指示した」人物

ここで、 J A いるま野の地域構成について簡単に紹介しておく。

この広域な範囲を、 J A いるま野では7つのブロック(川越地域・入間地域・狭山地域・北部地域・西部地域・東部地域・所沢地域)に分けて管轄している。

埼玉県には J A グループ埼玉、 J A 埼玉県中央会、そして各市町村に23の J A 組織がある。 J A いるま野は13の市町 J A (川越市・所沢市・飯能市・狭山市・入間市・富士見市・ふじみ野市・坂戸市・鶴ヶ島市・日高市・入間郡三芳町・入間郡毛呂山町・入間郡越生町)から構成されており、単独 J A としては県内最大

J A といえは農林水産省の事実上の出先機関として、農業の指導や流通の支援などをメイン業務にしていると思われがちだが、 J A いるま野の貯金残高(預金重)は1兆169億円。正組合員約2万9千人、准組合員



JAいるま野地域一覽
(JAいるま野ホームページより引用)

約5万人を擁し、従事する職員数はおよそ14000人を数える、大きな金融機関でもある。銀行など通常の金融機関が兼業を厳しく制限されているのに対し、JAは特権として金融を含む幅広い業務を行うことができる。

第15回総代会の5日前、すなわち6月10日の正午に、JAいるま野を構成する7ブロックのうち、北部地域と西部地域の留任予定理事らによる昼食会が開かれた。この昼食会でカネが配られたように、というのである。

あるJA関係者は本紙に、その様子をこう述べた。「昼食が終わってしばらくすると、先に西部代表理事らが残り、北部代表理事(北部)がいきなり『こんなものを預かっているのだが、どうしようか。みんな

で分けようか』と、あきらかにカネを意味する生々しい話を切り出した」ところがA理事の提案は、その場にいた北部理事らには受け入れられなかった。元市会議員でもある石川理事(北部)は「それでは票のとりまとめ、買収行為ではないか」とA理事を強く糾弾。その場にいた小室代表理事も「とんでもない話だ。カネを『預かっている』のなら、すぐに返さなければいけない」と、A理事に強く主張した、という。

「カネを出したのはC地域理事代表(狭山)が預かり、北部のA理事に渡して、北部理事たちが集まったときにばらまこうとしたわけだ」(JA関係者) 結果として、この北部理事買収作戦は未遂に終わった。「ところがA理事はカネを返しに行かなかった。そこで3日後の13日、小室代表理事がA理事から取り立てて、B理事に返した」(同上) しかし、ことは穏便には済まなかった。ただでさえ半ば周知の事実として、金銭の動きが懸念されていた選挙の直前である。他の地域代表理事らはこの情報をいち早く察知。そして14日の緊急監査会に至ることになる。

別のJA関係者が証言する。「C氏は開き直ったかのような言い訳をしていた。カネを用意したことについて、本人いわく『あれは5万円だから大した金額じゃない。選挙法にも触れない食事代程度のものだ。本当を言えば、私はあんなことをやる気ではなかった。しかし、川越の指示だからやらなければいけない。前例だってあることだし』などと弁明していた。まったく馬鹿げた話だ」 この「川越」という地名が指し示しているのは、元代表理事組合長のD氏である。つまりD氏の指示により、C理事が総額数十万円を用意。B理事の手を經由してA理事が北部理事らの「買取現場」に持ち込んだ、というわけである。

繰り返すが「カネばらまき未遂」昼食会は10日。小室代表理事がB理事に現金を返却したのが13日。緊急監査会が14日……。つまり新代表理事選の前日である。そして先に述べたとお

に、カネばらまき行為の「首謀者」は、実際にカネを用意したC理事ではなかったというのだ。

り、翌日の臨時理事会では新代表理事を選出する直前に、前専務理事は「不祥事に近い事件があったが選考は公明公正に行わなければならない」と発言しているのだ。

ことの異常性と重みをお伝えするため、このときの桑原前専務理事の発言を詳しく引用する。「(中略) 今回の役員改選にあたって、いるま野にとつて一大事の問題が上がっている。2万9千人近い正組合員、5万人におよぶ准組合員、14000人の職員の先頭に立つ組合長・副組合長・専務の選任にあたって不祥事に近い事件があったわけであるが、そのような事実を重く受け止め、我々理事の責任を全うすべきではないかと思われる。(中略) 特に今年は金融庁検査が予定されているなかで、公明公正な経営のガバ

ナンスが求められている。(中略) この一大危機に対して役員候補者のみならず、その選任に当たる人も、自らの力で公明公正な行動をしなければならぬ。万が一マスコミのえじきにされたら、今まで培ってきた信頼信用は泥沼に落ちてしまう」

つまり「不祥事に近い事件」(カネばらまき未遂事件)があり、「金融庁の検査が今年予定されている」という「一大危機」を目前にしているため、「マスコミのえじきにならないよう」役員に求めている。JAいるま野とは、役員選考(選挙)のわずか1時間ほど前になって、専務理事がこのようなことをアナウンスしなければならぬ組織だ、ということなのだ。

「カネは『川越』の指示だった。やらないわけにはいかなかった…」

何が「公正かつ公明な選考」だ! 「不祥事」について何一つ明らかにされないままカネを配ろうとした「実行犯」らが翌日には選考委員に!

実があるのだ。代表監事がカネを返しに行つて、前日には緊急監査会まで開いたじゃないか。預金残高1兆円の金融機関でもある農協の組合長とは、こんなことで決まるのか」

そう憤る声に対し、「お金が動いたということは私どもには実際にはわからないこと」と反発する主張も見られた。

つまり前日の緊急監査会でどのような結論が出たというのか、臨時理事会の出席者には何らの明確な説明がなかった、ということだ。「結論を明確にする意思がなかった」のだから。

「わずか数日前の『カネばらまき行為』に対する何らのアクションも示されないまま、いきなり投票とは何事か。現金が動いたという事実に対する、納得のいく解決を示してから新代表理事を選ぶのが筋ではないのか」……。複数のJA関係者は怒りを隠さない。

この新代表理事選考の非常識さは、これだけではなかった。なんと「カネばらまきルート」に登場する人物3名が、組合長の選考委員に堂々と入っていたのだ!

D元代表理事組合長がカネばらまき行為を指示したとされる、その意図と目的については本文後半にて説明する。その前に、今回の新代表理事選挙をめぐる「票とカネ」について、さらにお伝えしなければなら

JA いるま野・地域別役員数と選考委員（常務理事3名を除く・敬称略）				
地域	人数	(女性)	組合長の選考委員	副組合長・専務理事・常務理事の選考委員
川越	10	(1)	大河内裕之、山田英夫、有山鉄男	山田英夫、岡田茂、青木敏子
東部	7	(1)	柿沼正作、武田信太郎、新井定男	桑原福治、原田晴男、三澤初美
入間	6	(1)	福島隣一、加藤利治、澤田平司	福島隣一、加藤利治、澤田平司
狭山	6	(1)	宮岡宏太郎、諸口栄治、齋藤正弘	齋藤修司、古谷博、中田トシ子
北部	8	(1)	波田二三雄、加藤正勝、亀田康好	波田二三雄、加藤正勝、亀田康好
西部	9	(1)	村田肇、町田智、関谷英男	村田肇、町田智、関谷英男
所沢	7	(1)	水村作一郎、諸星賀津美、町田修	新井卓利、諸星賀津美、町田修
合計	53	(7)		

地域別理事数の内訳と実際の選考委員

ないことがある。先に述べたとおり、北部地区理事へのカネばらまき行為は、小室代表監事らの良識ある行動で未遂に終わった。だが、他の地域ではどうだったのだろうか。今回の選挙、JA いるま野を構成する7ブロックのそれぞれに3名の選考委員（3票の投票権）を割り当て、合計21票を争う形が採られた。もちろんブロックごとに所属人数は異なる。JA いるま野の理事56名のうち、常務理事3名を除く53名の地域別内訳は所沢地域7名、川越地域10名、東部地域7名、入間地域6名、狭山地域6名、北部地域8名、西部地域9名となる。また各地域とも1名は女性理事だ。

新代表理事選挙には、これら各ブロックからそれぞれ3票、すなわち3名が選考委員を得たわけだが、具体的に誰が選考委員に選ばれたのかは、当日の臨時理事会会場で、ブロックそれぞれの裁量に任せられ決められた。さて、「地域別理事数の内訳と実際の選考委員」をご覧いただきたい。驚いたことに組合長選考委員にはC、Bの両氏（狭山）およびA氏（北部）が、また副組合長・専務・常務理事の選考委員にはふたたびA氏

が選ばれているのだ。5日前に「カネばらまき」行為におよび、前日には緊急監査会で問題となった「不祥事」の当事者らが、おどろいたことに翌日には選考委員としてオールスター総出演しているのだ！

「この世界にこんな話が通用するというのは。まるで無法地帯ではないか。この事実ひとつを見ても、JA いるま野という組織の体質は、尋常とはほど遠い。金融機関には特に重要な「コンプライアンス」(法令遵守)という言葉など、あつという間に霞んで消える。

JA いるま野では7ブロックすべてに1名の女性理事が誕生した。そのため「女性の意見を取り入れるのは重要。選考委員3名のなかに女性を1名入れるべきだ」との主張も出た。だが実際に選ばれた女性理事の数といえば、組合長選考委員では1名のみ。副組合長・専務・常務理事選考委員でようやく4名を数えることができた。

先のJA関係者は説明する。「女性理事たちは新代表理事選の『カネ問題』についてよく知っているし、問題意識も男性理事よりはるかに高い。だがJAとは所詮、男社会だ。そのためか特に組合長選挙に際しては、各ブロックとも女性理事を選ばなかったようだ。コンプライアンス(法令遵守)を声高に唱えるなら、女性理事が選考委員に加わることで、このカネまみれ状態をひっくり返せばよかったのだが…。現実には無理な話だろう」

JAの代表理事組合長、副組合長に選任されることのメリットはどのようなものか。本紙の素朴な疑問に對し、

「組合長になれば100万円の月給プラス『権力』が手に入る。副組合長も月収100万円だ。誰だってやりたいだろう」(同JA関係者)

権力と高額な月収を保障されるポストをめぐる醜い争い…。どの組織でも聞かれる話ではある。だが今回の選任結果の背景にあるものは、それだけではないようだ。

別JA関係者が、厚生連病院が抱えている問題について説明する。

「熊谷総合病院の収益で旧幸手総合病院の損失を約30年間埋めてきた。赤字続きで、本来ならば廃止すべき病院だった。いまでこそ久喜総合病院に生まれ変わったが、4月にオープンしたばかりだ。経営安定化がまず最重要課題なのにもかかわらず、それと並行して熊谷の病院の新築計画だ。3、4年をかけて様子を見て、久喜総合病院がきちんと軌道に乗ったかどうかを確かめてから熊谷を新築すべきだ。

旧幸手総合病院は会計処理に経営安定化基金(各JAと連合会が15億円を出資して設立した基金制度)をも宛てていた。基金発足以後だから、ここ10年ほどの話だ。厚生連病院全体で、これまで累計7億円ほどを使っている。そういう経営状況なのだ」

久喜総合病院の経営が軌道に乗るまで、熊谷総合病院の新築計画は推進すべきではない…。誰が聞いても筋の通った、まっとうな話である。事実、JA いるま野全体がこの考え方を共有している、とも言われる。先JA関係者は続ける。

10年以上ぶりの新代表理事「選挙」とは「熊谷総合病院新築工事」で利を得ようとするD氏の意志が働いた結果なのか？

10日の昼食会で配られたカネを用意したとされるC氏。「本当はやりたくなかったのだが『川越の指示』でやらざるを得なかった」という発言が示唆しているのが、元組合長のD氏であることは先述のとおり。今回の組合長代表理事選考の背後を操っていたのがD氏である、という疑惑が複数のJA関係者への取材から浮上した。

この疑惑に関係するのが、JA埼玉厚生連(埼玉県厚生農協協同組合連合会)の病院問題である。埼玉県厚生連では現在、JAの系デイカル面を担当する施設として「久喜総合病院」と「熊谷総合病院」の2つの施設を運営し、会計は埼玉県厚生連で一括して行っている。病院は2つだが、会計は1つ、というわけであ

久喜総合病院は今年4月にオープンしたばかりの新しい病院だが、もともとは幸手市に所在した「幸手総合病院」であった。

旧幸手総合病院は大きな問題を抱えていた。35年連続の赤字続きで経営難に陥っていたのである。だが数年前、久喜市が35億円の建設補助金を支出する約束で同病院を誘致する計画を始動。JAバンク埼玉(JA埼玉県信連)からも75億円の融資を得て、晴れて今年4月1日に「新しい医療制度改革にも対応できる病院」、久喜総合病院として生まれ変わった。

赤字続きの旧幸手総合病院を久喜市がわざわざ誘致した理由は、田中久喜市長の選挙パフォーマンスだったと言われている。現在の久喜市は2009年、旧久喜市・鷲宮町・栗橋町・菖蒲町の1市3町が合併した自治体として新たに発足した。旧久喜市時代に3期をつとめた田中市長が、当時から「久喜市に幸手総合病院の誘致を実現することが、私に与えられた使命」と喧伝していたことは記憶に新しい。

35年にもおよぶ旧幸手総合病院の赤字を、約30年の長きにわたり「損失補填」してきたのが熊谷総合病院だ。昭和23年に埼玉県農業会が県北地域の農村医療を担当する病院として開設した同病院は、昭和47年に現在地に移転。病床数322床で急性期病床主体の病院だが、建物がいささか老朽化していることは否めない。そのため現在、熊谷総合病院の新病院建設計画が進んでいる。今年4月にはすでに工事入札が終

「JAいるま野の役員もみなこの考え方に賛同しているはずだ。D氏ですらそう思っていた。だがD氏はもう引退の年齢だ。自分の任期中に熊谷の新病院建設計画を進めてしまえば、そこにはいろいろな『旨み』が生じる。建設業者との金銭をめぐるメリットはもちろん、人事、就職斡旋など、『旨み』には事欠かないだろう。だから、熊谷総合病院の新築工事が始まる前に、工事に対する反対の急先鋒だった前会長理事を、いわば『売ってしまった』のだ」

前会長理事とは、JA埼玉県中央会（埼玉農業協同組合中央会）の細野邦彦氏である。熊谷病院の新築工事に対し、「他人の金（JAの資金）で事業する、というJAの悪しき感覚を捨て、自分が身銭を切って真剣に事業を進めていく意識を持たなければだめだ」と、強い懸念を表明していた人物だ。当然ながらD氏にとって、細野氏が鬱陶しい存在であったことは容易に推測できる。

ところがD氏、実はこれまで細野氏に「非常に世話になってきた」のだという。「そもそもD氏が元組合長になれたのも、細野氏のおかげだ。D氏は年齢こそ細野氏より上だが、JAいるま野が過去に起こした事件

（ゴボウや焼酎の産地偽装）の影響もあって信用を失っていた。そのD氏が常勤役員になれたのは、細野氏の助力があったこそだ。そもそもJAいるま野は代表理事選挙にあたってこの10年間、選挙なんかやっていない。D氏は副組合長選任時も指名、組合長選任時も細野氏の指名により満場一致で承認された経緯がある。だから今回の人事も、元組合長であるD氏がまず代表理事候補の有無や適性などについて、理事間での話し合いの場を作るべきだった」

だが実際には、臨時理事会では突如として「選挙」方式が提案され実行された。議事録を見ると、まず大河内議長が議事として「常勤役員の選任に当たっては、

公平かつ公正に選任いただくよう監事会より申し入れがあった旨を報告した」とあり、さらに組合長選考では村田理事が「各地域によって理事の人数も違うこと、公明正大にということから、各地域より選考委員を何名かずつ選出し、そのなかで協議したらどうか」と意見したことが、結果として選考方法に採用されている。

X氏（JA中央会トップ）がD氏を抱き込み、細野氏を切った？ トップによる「私物化」に対し自浄作用が働かない組織に明日はない！

細野氏はなぜD氏にとって、それほど「排除したい」障碍なのか。細野氏がJA埼玉中央会の副会長であった、という事実がここにクローズアップする。

細野氏が反対し、また多くのJAいるま野関係者も懸念する、拙速な熊谷総合病院の新築計画…。この計画を強力に推進した人物として浮上するのが、JA埼玉

だが各地域によって理事の数が異なることなど、いまに始まった話ではない。また「公平かつ公正」「公明正大」という言葉に何の実効性もないことは、この臨時理事会の前日に「カネばらまき」をめぐる緊急監査会が開かれたこと、また緊急監査会の結論や見解が何一つ臨時理事会でアナウ

ンスさえされていないことを見れば、一目瞭然ではないか。「もし今回の『選挙』という選考方式」が、元組合長であるD氏の意志の反映だとしたら…。D氏は厚生連病院問題（熊谷病院の新築計画）に直接的な障碍とならない3名を、新代表理事に配置しなかった…。そういう意図があったとさえ考えられる」（先のJA関係者）

つまりD氏は、熊谷総合病院の新築計画で利を得るため、その障碍である細野氏を今回の新代表理事人事から外そうとした…。そのためにあえて「選挙」という方式を意図し、あらかじめカネまでばらまこうとした、あるいは実際にばらまかれた地域もある、というのだ。

玉県中央会のドン、X氏である。JAに50年以上も在籍。中央会の専従職員からトップに上り詰めたX氏は、会計テクニクを含めJAの表も裏もすべて知り尽くした人物、と評される。熊谷病院の新築計画を推進するX氏にとって、細野副会長が邪魔な存在であったことは容易に推測できる。しかも細野氏はまだ70歳未

切ったんだ。D氏が細野氏を推薦しないようにね。細野氏が中央会役員でなくなれば、それは同時にJAいるま野の『会長理事』ポストも自動的に消えることを意味する。つまりD氏はX氏から、熊谷病院の新築工事と新病院オープンで『旨み』ができると言い含められ、そのために恩のある細野氏を『売った』のだ」

取材の過程で本紙は、X氏が「人の性格を見抜く眼の持ち主」という評を耳にした。またD氏は今回の人事以前、すなわちJAいるま野組合長時代には孫をJA埼玉県信連に就職させたらしい、という未確認情報も得た。何百人もの応募に対し2名しか採用しない狭き門に、孫を押し込んだというのだ。

6月15日の新代表理事人事以降、D氏は組合長を退き現在は役職を持たない単なる組合員である。だが中央会のドン・X氏の子飼いなとして、熊谷総合病院の新築計画に参与していくつもりなのか。

「久喜総合病院の経営が安定してから熊谷総合病院を新築すべき、ということにはD氏だって理解はしている。だがD氏にとって、いまが最後の『稼ぎ時』なのだろう。かりに厚生連病院が経営不振に陥っても、それは

もう数年後の話だ。そんな後のことより、いま『箱』を作って『旨み』にありつく魅力に、D氏は取り憑かれたのだろう」（同上）

そこにあるのは「私物化」の3文字。農業従事者のために骨身を削って働く「農業協同組合幹部」の姿など、微塵も見られない。預金残高1兆円規模の金融機関でもあるJAいるま野。

目前の金融庁検査を最大の危機と意識しながらも、カネばらまきの当事者らが堂々と役員選考に顔を連ねるJAいるま野。過去の不祥事をものともせず、「コンプライアンス」や「公正・公平」をお題目のごとく唱えてはいるものの、目先の私利私欲の邪魔になる役員を切り捨て、将来の経営安定など頭にもないトップが牛耳るJAいるま野…。

「結局のところ、農協というのはそういうところだ」などと、改善への意志をあきらめては断じてならない。自浄作用の働かない組織は必ず自壊する。埼玉県の農業の明日を大局的に見据えることができる、真に農家のための協同組合に生まれ変わることを、またその意志を持つ理事をトップに迎えることが、JAいるま野という組織にとっての、何よりの急務だ。■

200万人の読者が見ています！
ビッグニュースが盛り沢山
「インターネット行政調査新聞」
<http://www.gyouseinews.com/>



行政調査新聞では
市民の皆様からの投書、投稿を募集しています。郷土・埼玉への建設的ご意見をお待ちしております

〒350-1103 埼玉県川越市霞ヶ関東 3-8-13
行政調査新聞社
TEL 049 (237) 5431 FAX 049 (237) 5432